

## 主要な遺跡・観光施設の現状

## (1) 川原寺周辺の概要

## 1) 遺跡の概要

西に西金堂、東に塔を配置しこれらを取り囲むように回廊が巡り、北の中金堂に取り付く。さらに北方に金堂を配し、これを巡るように東西北に大規模な僧房が並ぶ。創建時期は明らかではないが、文献や土器・川原の年代から天智朝から天武朝と考えられる。また寺院の下層遺構は川原宮の可能性がある。

## 2) 環境整備：昭和 47・48 年度

史跡区域のうち南門、中門、塔、西金堂、中金堂、講堂、僧房跡等の伽藍の中心地域は一部の寺院境内地、民家地を除いて、公有地化、復元整備事業が実施され、基壇の復原、礎石の露出展示、伽藍配置の復原等が行われている。

## &lt; 整備の概要 &gt;

南大門は玉石の二段積みの基壇の復元と基壇上面はセメントで強化した真砂土舗装。中門は凝灰岩切石で基壇を造成し、東西に階段を設置。上面は張り芝。回廊は当初の礎石が遺存しているものについては露出展示とし、欠損石についてはプラスチックで復元。基壇は内庭側を凝灰岩切石、外側を玉石として上面を三和土舗装。講堂・鐘楼・東南院・東門と僧房の北半については盛り土張り芝で遺構表示をするにとどめられている。内庭部分については砂利敷きとし、参道は玉石敷きを復元。他は張芝。

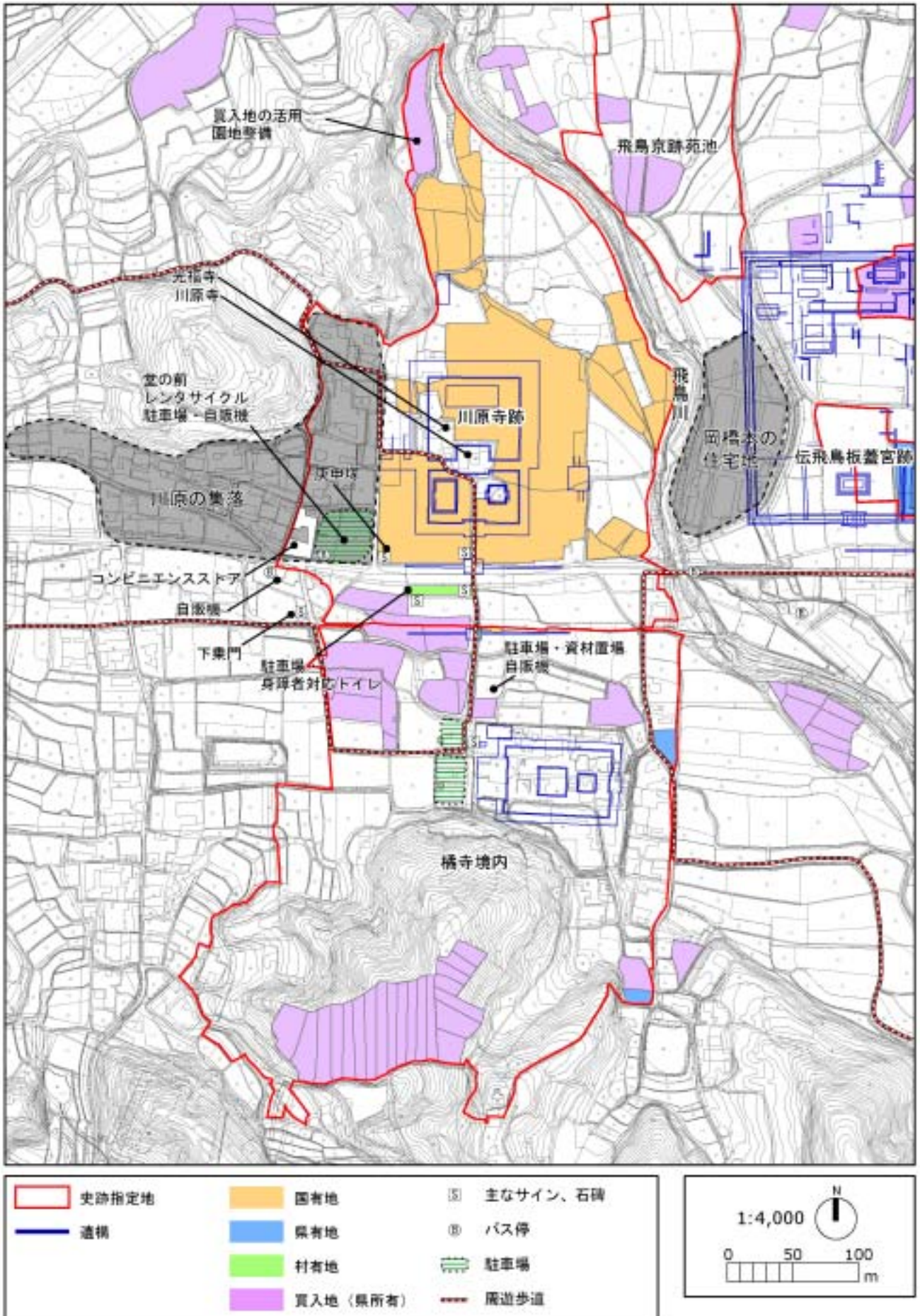
## 3) 遺跡周辺状況

周辺には重要な歴史的資産が集積しており、南側に隣接して橘寺境内、西には飛鳥川を挟んで伝飛鳥板蓋宮跡や飛鳥京跡苑池がある。また西には史跡川原寺跡の飛び地（亀石）がある。

史跡地内には寺院境内地や公有地化して復元整備された中心地域以外に、川原の集落の一部や農地を含んでいる。また、南大門を南に避けるようにして県道多武峰見瀬が通っており、近鉄飛鳥駅や国道からの来訪者の主要な周遊ルートとなっているほか、平日においても交通量の多い幹線道路となっている。

観光関連施設では、史跡地内の村有地にトイレと園地整備が行われているほか、川原の集落に民間の駐車場・レンタサイクルやコンビニエンスストアが立地している。

図 4-1 川原寺跡遺跡周辺状況図





県道およびコンビニエンスストア（史跡地）



村有地の整備状況（史跡地）



民間駐車場及びレンタサイクル（史跡地）



便所の整備（史跡地）



自動販売機（史跡隣接地）



園地整備（史跡地）



橘寺と自動販売機



歴史的風土特別保存地区案内板



駐輪スペース（史跡地）



ベンチ（史跡地）



案内板（史跡地）



川原の集落（史跡地および隣接地）



庚申塚（川原寺跡）



下乗門（橘寺境内）



軽食スペース(川原寺)



北側金堂跡より川原寺を望む



民有地のノボリ（川原寺跡史跡地内）



資材置場、駐車場（橘寺前）



買入地



整備後の川原寺



整備前の川原寺



川原寺跡の草地の広がり



史跡地と飛鳥川の境界部

## (2) 飛鳥池遺跡周辺の概要

### 1) 遺跡の概要

飛鳥寺の東南、人字形に延びる谷に面した丘陵斜面に7世紀後半から8世紀初頭にかけての各種工房群が配置されていた。西側の谷筋は、谷の合流点から50mほどで丘陵に遮断され行き止まりとなるが、この谷筋の奥部において金・銀・ガラスの加工が行われていた。一方東側の谷筋は、全長250m近くに及び、銅、鉄を中心とし工房群がひろがり、その再奥部には亀形石槽（亀形石造物）が位置する。

### 2) 環境整備

：万葉文化館・文化財事前調査 平成9年1月～平成11年9月まで文化財調査の実施  
建築工事 平成11年10月（本格着工）～13年9月（開館）

#### < 整備の概要 >

史跡区域の内、一部遺構に関して屋外での復元展示を行っている。敷地北側においては石組方形池、石敷井戸、道路、飛鳥寺南面大垣、塀などが切石の配置によって復元され、一帯は張芝がなされている。また展示施設と研究施設の二棟間の中庭においては炉跡群を復元している。いずれの復元箇所も遺構を一端埋戻した上層において復元したものである。

万葉文化館の建築部と史跡との共存に関しては県が独自に文化庁と県教育委員会等と協議し、一部建物場所の変更、基礎杭の位置変更。発掘された遺構は原則全て埋め戻しを行うこととしている。

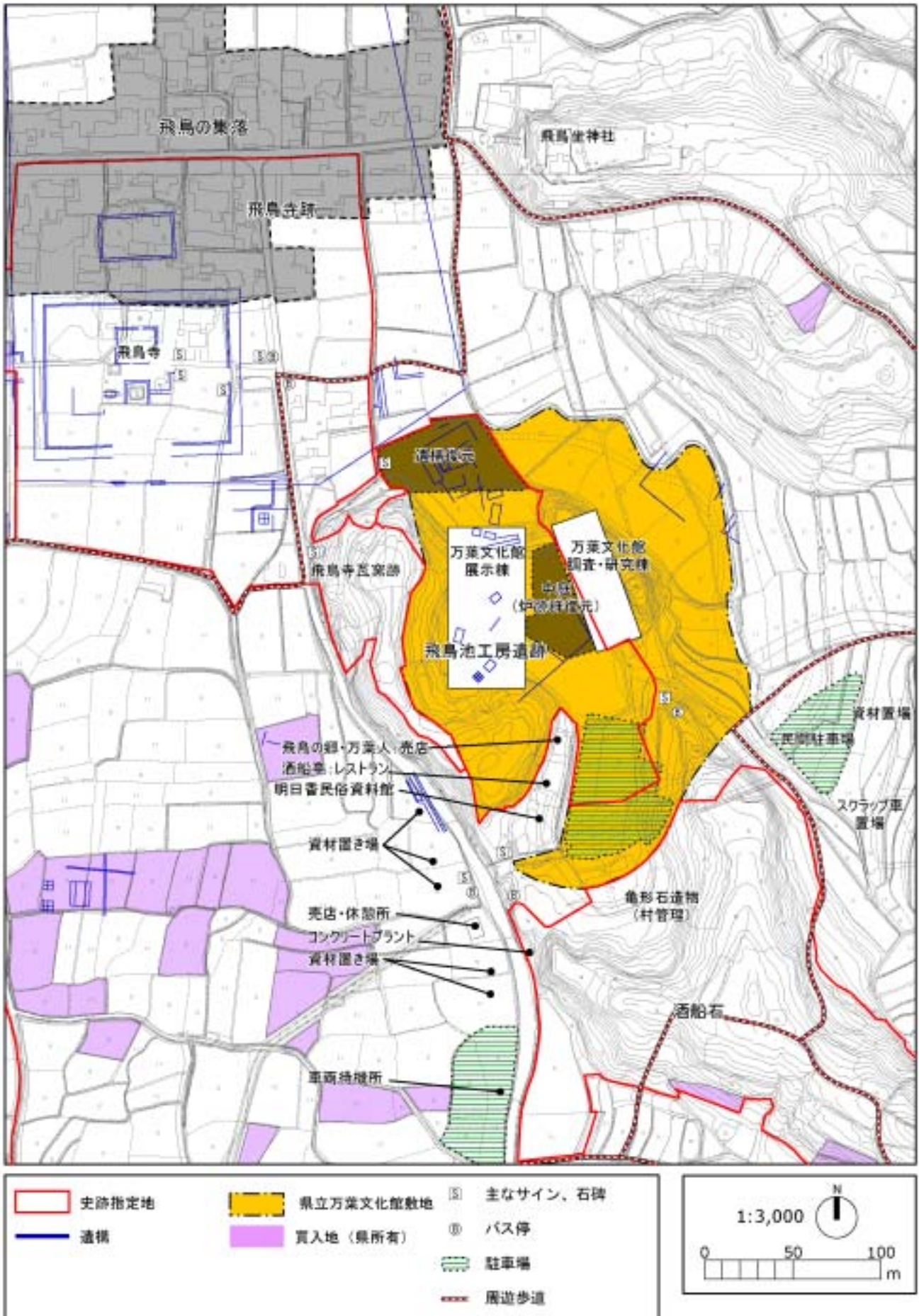
### 3) 遺跡周辺状況

周辺には重要な歴史的資産が集積しており、北西に隣接して飛鳥寺跡の寺域、西側に面して飛鳥寺瓦窯跡がある。さらに南は亀形石造物を境に酒船石遺跡が面している。この酒船石遺跡の西側には明日香法以前よりコンクリートプラントが立地し、関連する資材置場等と共に景観上の課題となっている。

万葉文化館の南側には開館に伴って駐車場が付属し、周辺には来館者や駐車場利用者等を対象とした売店やレストランが整備されている。

南西側の隣接地は、万葉文化館建設後、西側からアクセスする館利用者を対象とした民間駐車場として利用されており、民間駐車場の奥はスクラップ車置場や資材置場となっている。

図 4-2 飛鳥池遺跡周辺状況図





万葉文化館の庭園



東側新設道路沿いの販売所



駐車場前の売店



レストラン



明日香民俗資料館



西側の駐輪場



西口前の売店・休憩所



コンクリートプラント





民間駐車場内の無人販売所



民間駐車場・資材置場



酒船石



亀形石造物



酒船石遺跡裏手の周遊歩道



買入地における遺跡覆屋



万葉文化館の駐輪場



万葉文化館東側の新設道路

### (3) 拠点的施設の概況

#### 奈良県立万葉文化館 (奈良県)

所在：〒634-0103 奈良県高市郡明日香村飛鳥 10 番地 電話番号：0744-54-1850 (代)

開館時間：9：00～17：00 休館日：水曜・年末・年始(12月28日～1月4日) 展示替日

入館料：一般 600 円(480 円)、高校生・大学生 500 円(400 円)、小・中学生 300 円(240 円)

( )内は 20 名以上の団体料金

- ・ 万葉のふるさと・奈良にふさわしい『万葉集』を中心とする古代文化の総合拠点として、平成 13 年 9 月開館。
- ・ 施設造営中に飛鳥池工房遺跡が発掘され、和同開珎より古い鑄造貨幣、富本銭が発見。これらの文化財については、その保存に努めるとともに、復原展示などで創造的に活用することにより、遺跡と共存する総合文化施設をめざす。
- ・ 万葉文化館は日本の古代文化を「調査・研究」する機能、万葉に関連する文化の振興を「展示」する機能、万葉集に関する情報の収集が得られる「図書・情報サービス」機能の 3 機能を備える。
- ・ 各種講座の開催、イベントの開催や、ボランティアによる展示解説などの市民参加活動を積極的に実施。



施設外観



飛鳥池工房遺跡復原(屋外)



万葉ミュージアム内展示

### 奈良国立文化財研究所 飛鳥資料館 (独立行政法人文化財研究所)

所在：〒634-0102 奈良県高市郡明日香村奥山 601 電話番号：0744-54-3561  
開館時間：9：00～16：00 休館日：月曜(祝日の場合は翌日)・12月26～1月3日  
入館料：一般 260 円(170 円)、高校生・大学生 130 円(60 円)、小・中学生無料  
( )内は 20 名以上の団体料金

- ・ 昭和 50 年に国立飛鳥資料館として開館。
- ・ 飛鳥時代を中心に出土品などの諸資料を、奈良文化財研究所の研究成果をもとに展示・解説。
- ・ 屋外には須弥山石、酒船石、猿石などの石造物のレプリカを展示。
- ・ 平成 6 年に増設した展示室には、山田寺回廊跡から出土した建築部材を再構築した回廊を復原・展示。
- ・ 毎年、春期・秋期には飛鳥にちなんだ特別展示も実施。



施設外観



屋内展示

### 高松塚壁画館 (財団法人飛鳥保存財団)

所在：〒634-01 奈良県高市郡明日香村平田 439 番地 電話番号：0744-54-3340  
開館時間：9：00～17：00 休館日：月曜(4、5、10、11月無休)12/28～1/3と2月中  
入館料：一般 250 円(200 円)、高校生・大学生 130 円(100 円)、小・中学生 70 円(50 円)  
( )内は 30 名以上の団体料金

- ・ 高松塚古墳の保存と周辺環境の整備のため発行された寄付金付記念切手の寄付金を受け、古墳とその周辺の公園化とともに設立され、昭和 52 年開館。
- ・ 高松塚古墳を恒久的に、広く紹介するため、高松塚古墳より発見された彩色壁画の模写、模造、石槨レプリカなどを展示。
- ・ 図書資料室・古墳や壁画に関するデータベースも設備。



施設外観

### 南都明日香ふれあいセンター 犬養万葉記念館 (明日香村)

所在：奈良県高市郡明日香村岡 1150 電話番号：0744-54-9300

開館時間：10：00～17：00(12、1、2月は9：30～16：30)

休館日：毎週月曜日(祝日と重なる場合は翌日)、12月25日～1月5日  
但し、4・5・10・11月は無休

入館料：一般・大学生 300円(250円)、高校生・中学生・小学生 200円(150円)  
( )内は20名以上の団体料金

- ・ 文化功労者で、大阪大学名誉教授、甲南女子大学名誉教授の故犬養孝先生の業績を顕彰し、広く「犬養万葉」の魅力の後世に伝える記念館として、平成12年4月開館。
- ・ 建物は、旧南都銀行明日香支店の店舗の蔵造り風の外観を残し、内部を改装して建設。
- ・ 館内には、犬養先生の蔵書・図書約7,000冊(閲覧可能)ビデオテープ、CDや書斎の再現や遺品を展示。
- ・ 四季折々の特別展や万葉集に関する講座、イベントも実施。
- ・ 展示へのアドバイスや講座の講師などに、犬養先生の教え子を中心に発足した『犬養万葉記念館に協力する会』が協力。



施設外観



屋内展示

### 明日香民俗資料館 (明日香村)

所在：〒634-0111 奈良県高市郡明日香村岡 410 電話番号：0744-54-3655

開館時間：9：00～17：00(12、1、2月は9：30～16：30) 休館日：月曜日・年末年始(ただし3・4・5・9・10・11月は無休)

入館料：無料

- ・ 明日香村の歴史や年中行事を紹介し、生活様式・民具・伝承などに関する資料を展示。
- ・ 資料館敷地内の、江戸時代の移築民家「真神荘」では、古代ガラスの製作体験などの各種イベントを開催。



施設外観



屋内展示